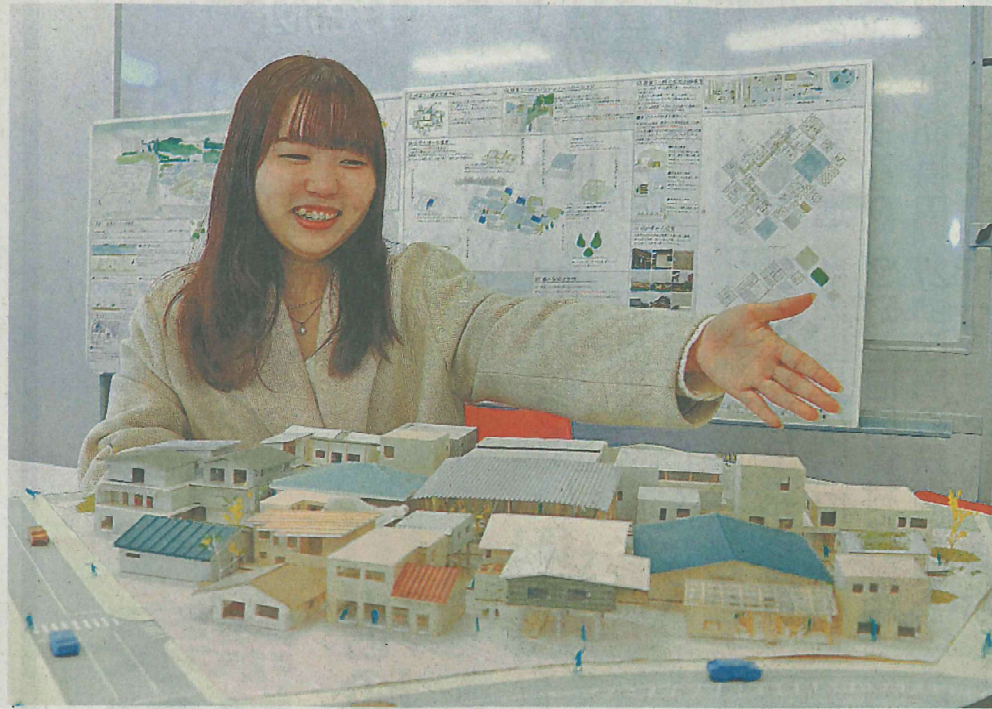


## 建築の全国コンペで広島工業大の小西さん



図書館と銭湯を組み合わせた大学施設の模型を説明する小西さん

# 大学図書館×銭湯 1198 作品の頂点に

広島工業大（広島市佐伯区）3年の小西美海さん（20）＝南区＝が、建築を学ぶ大学生や高専生による全国コンペ「建築新人戦」で最高賞を得た。大学図書館と銭湯の複合施設で地域ににぎわいをつくる構想が評価され、応募1198作品の頂点に輝いた。

（余村泰樹）

## 地域ににぎわい 構想評価

建築新人戦は、学生がそれぞれ学内で取り組んだ設計課題作品を競う。小西さんは、図書館をメインとする大学施設の設計で、地域ににぎわいを生み出すという課題に挑んだ。銭湯との組み合わせは「お年寄りから子どもまで集い、裸の付き合いができる」との理由から。図書館や銭湯をつなぐ道をはだして歩けるようにし、くつろげる空間づくりや滞在時間を延ばす工夫を凝らした。

外観は近くの民家の屋根や外壁に合わせ、周囲に溶け込ませた。「大学施設は住民には入りづらい。ふらっと迷い込み、自然と交流できる場を描いた」と狙いを語る。

コンペは建築系の大学教員や学生による実行委員会が2009年から毎年開き、全国の大学3年までの学生たちで競う。小西さんは書類やプレゼンテーションの審査を経て9月17日に最高賞の最優秀新人賞に選ばれた。「全国から集まった作品はレベルが高く、刺激を受けた」と振り返る。

小学2年で建築家になる夢を思い描いた。東日本大震災の被災者が避難所から住宅に移り、喜ぶ姿を見たからだ。「建物は人を笑顔にできる。幸せを届けられる空間をつくりたい」。今後は大学院に進み、さらに学びを深めるつもりでいる。